

ま え が き

本書は、平成15年度から3年間にわたって実施したプロジェクト研究「養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究－知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に－」の最終報告書としてまとめたものです。

既に、研究1年次の成果を「知的障害養護学校の先生のための自閉症教育実践ガイドブック－今の充実と明日への展望」として平成16年3月に、研究2年次の成果を「自閉症教育実践ケースブック－より確かな指導の追究－」として平成17年10月にまとめ、それぞれ都道府県・政令指定都市教育委員会や教育センター、全国の盲・聾・養護学校等に配布するとともに、この研究成果をさらに広く普及するため、一般の書店で入手できるよう刊行しています。したがって、本書では、内容の重複を避け、主に研究3年次に実施してきた内容をまとめることとしました。

本書は、3章で構成されています。第1章は、本プロジェクト研究の課題設定の経緯や3年間かけて行ってきた研究の概要を経過として述べています。第2章は、平成17年10月から11月にかけて全国3会場で開催した「N I S E自閉症教育実践セミナー」の趣旨と内容、今後の自閉症教育における課題と方向性を参加者とともに整理しようとしたプロジェクト・ワークショップの協議内容と、3会場全体のまとめを述べています。各会場での全体会と分科会の報告・協議の詳細については、巻末資料として掲載しています。第3章は、本プロジェクト研究の研究協力校5校に依頼した教育課程についての調査結果と「N I S E自閉症教育実践セミナー」のプロジェクト・ワークショップで行った教育課程に関する協議内容に基づいて、自閉症の特性に応じた教育課程の在り方について述べています。

本書で後述されるように、盲・聾・養護学校のどの校種にも自閉症を伴う子どもたちが在籍しています。4人に1人が自閉症の診断または疑いがあると推定されています。自閉症の子どもが在籍割合が高い知的障害養護学校のみならず、全ての盲・聾・養護学校で自閉症の特性に応じた教育の充実が喫緊の課題となっています。本プロジェクト研究は、わが国の自閉症教育におけるスタンダード作りを目指してきました。まだ残された課題や次の課題がありますが、本書が、先の「ガイドブック」、「ケースブック」と併せて自閉症教育の充実に役立てられることを強く願っています。

3年間にわたり多大な協力をいただいた研究協力校と研究協力者の方々、アンケート調査にご協力いただいた全国の盲・聾・養護学校の方々、「N I S E自閉症教育実践セミナー」のプロジェクト・ワークショップで協議に参加いただいた方々をはじめ、関係の皆さまに心から感謝申し上げますとともに、本書をご一読いただきご意見等をいただけるようお願い申し上げます。

プロジェクト研究
「養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の
特性に応じた教育的支援に関する研究」代表者

教育支援研究部 総合研究官
小 塩 允 護

＜研究の組織＞

所内研究分担者

	現在の所属（平成15年度時の所属）
小塩 允護	教育支援研究部（知的障害教育研究部） 研究代表者
竹林地 毅	広島県教育委員会（知的障害教育研究部） サブリーダー（平成17年3月まで）
木村 宣孝	教育支援研究部 サブリーダー（平成17年4月から）
徳永 豊	企画部（知的障害教育研究部）
佐藤 克敏	教育支援研究部（知的障害教育研究部）
齊藤 宇開	教育支援研究部（知的障害教育研究部）
涌井 恵	教育支援研究部（知的障害教育研究部）
廣瀬由美子	教育支援研究部（分室）
是枝喜代治	東京福祉大学（情緒障害教育研究部）（平成17年3月まで）
西牧 謙吾	教育支援研究部（病弱教育研究部）（平成16年3月まで）
花輪 敏男	山形県立上山高等養護学校（情緒障害教育研究部）（平成16年3月まで）
大杉 成喜	教育研修情報部（情報教育研究部）（平成16年3月まで）
東條 吉邦	茨城大学（分室）（平成16年3月まで）
内田 俊行	教育支援研究部（平成17年4月から）
小澤 至賢	教育相談センター（平成17年4月から）

研究協力者

＜平成15年度＞

園山 繁樹	筑波大学・助教授
肥後 祥治	熊本大学・助教授
宇佐川 浩	淑徳大学・教授
河島 淳子	トモニ療育センター・所長（小児科医）
寺尾 孝士	おしまコロニー星ヶ丘寮・施設長（TEACCHプログラム研究会・会長）
三苫由起雄	東京都立七生養護学校・校長
佐久間栄一	国立久里浜養護学校・教諭
氏田 照子	日本自閉症協会・副会長
石塚 謙二	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課・特殊教育調査官

＜平成16年度＞

園山 繁樹	筑波大学・助教授
肥後 祥治	熊本大学・助教授
宇佐川 浩	淑徳大学・教授
河島 淳子	トモニ療育センター・所長（小児科医）
寺尾 孝士	おしまコロニー星ヶ丘寮・施設長（TEACCHプログラム研究会・会長）
三苫由起雄	東京都立七生養護学校・校長

西川 公司	筑波大学附属久里浜養護学校・校長
荒川 正敏	筑波大学附属久里浜養護学校・教諭
氏田 照子	日本自閉症協会・副会長
石塚 謙二	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課・特殊教育調査官

<平成17年度>

園山 繁樹	筑波大学・教授
肥後 祥治	熊本大学・助教授
宇佐川 浩	淑徳大学・教授
河島 淳子	トモニ療育センター・所長（小児科医）
寺尾 孝士	おしまコロニー星ヶ丘寮・施設長
三苫由起雄	東京都立高島養護学校・校長
西川 公司	筑波大学附属久里浜養護学校・校長
荒川 正敏	筑波大学附属久里浜養護学校・教諭
氏田 照子	日本自閉症協会・副会長
石塚 謙二	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課・特殊教育調査官
竹林地 毅	広島県教育委員会事務局・障害児教育室長
是枝喜代治	東京福祉大学・教授

研究協力機関

<平成15年度>

国立久里浜養護学校
香川大学教育学部附属養護学校
横浜国立大学教育人間科学部附属養護学校
徳島県立国府養護学校
東京都立小金井養護学校

<平成16年度>

筑波大学附属久里浜養護学校
香川大学教育学部附属養護学校
北海道教育大学附属養護学校
東京都立小金井養護学校
富山大学教育学部附属養護学校

<平成17年度>

筑波大学附属久里浜養護学校
香川大学教育学部附属養護学校
北海道教育大学教育学部附属養護学校
東京都立小金井養護学校
富山大学人間発達学部附属養護学校

目 次

<まえがき>

<研究の組織>

第1章 研究の概要及び研究の経過

1. 本プロジェクト研究における課題設定の経緯	1
2. 研究の要旨	2
3. 研究の経過	3

第2章 NISE 自閉症教育実践セミナー

1. セミナー開催の趣旨について	7
2. プロジェクト研究ワークショップについて	7
3. ワークショップの流れ	8
4. プロジェクトワークショップの結果の概要	10
1) 「総合的なアセスメントの構築」について	10
2) 「目標設定のための観点」について	11
3) 「自閉症の特性に応じた教育課程の編成」について	12
5. プロジェクトワークショップのまとめ	18

第3章 知的障害養護学校における自閉症教育の教育課程について

1 知的障害養護学校における自閉症教育の教育課程編成上の課題の課題	21
2. 教育課程に関する調査	22
3 自閉症のある児童生徒等の特性に応じた教育課程編成の提言	36

<まとめ>

<N I S E 自閉症教育実践セミナー>

北海道会場	50
大阪会場	78
福岡会場	101